

審判員の基本動作

審判員が決められたゼスチュア、コール、ルール適用を正しく実施して、試合の進行を円滑にするために試合の開始から終了までに必要かつ基本的な「宣告用語」「姿勢と構え」「ゼスチュア（動作）とコール（発声）」をまとめてみた。これはあくまでも基本であるから、これをもとに研修を積み重ね自己の安定したスタイルを確立し、正確な判断と明快なゼスチュアを身につけて、誰からも信頼される審判員となることが望ましい。

【付記】
小学生・中学生の大会あるいは、親睦を目的とした大会などで、理解の不十分なプレイヤーがいるため、競技が混乱したり遅延したりするときには、フェア、ストライク、ボールのカウントをコールしたり、フォアボール（四球）の指示をすることは差し支えない。また、選手の交代、攻撃側の監督の選択権、打ち合わせ等については適切な指導を行ってよい。

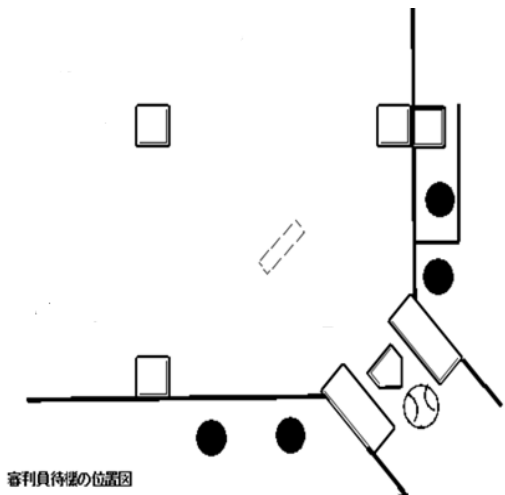
球審と塁審の段階指導の順序	
球審の段階指導の順序	塁審の段階指導の順序
on the rubber 両足の位置を決める。	set 構える。
get set 投手の動作に合わせて構える。	go 行く。
call the pitch 捕手のミットに球が入ったらストライク、 またはボールの宣告をする。	Stop 止まる。
Relax 緊張をとく。	Look 見る。
	Call コール。
	Look 見る。

＊「アウト」と判定したのちは野手を、「セーフ」と判定したのちは走者を注視する。

【集合と挨拶】

集合と準備 集合 礼

審判員は服装を整え（球審はインサイドプロテクター・レガーズを着けマスクを左手に持ち）、試合開始予定時刻の3分前に両チームに集合を知らせる。
放送からの“集合準備”で両チームはベンチ前に、審判員はネット前に整列する。
球審の“集合”で一斉に、駆け足で所定の位置に集合する。
両チームの選手は、打者席の外側の後部より、主将を先頭にして一列に向い合って整列させる。
球審の礼の指示により、全員帽子（男子）をとって相互の挨拶を行う。
このとき、審判員も帽子をとって挨拶する。
直ちに守備側チームを守備につかせ、審判員も所定の位置につく。



【準備投球】

ラストボール

球審は準備投球数を確かめ、投手に向かって、“ラストボール”とコールし、指差す。

投手板を掃く

1回表のみ捕手の二塁への送球と同時に三塁塁審が投手板を掃く。1回表終了時以降は、攻守交代時に二塁塁審が投手板を掃く。

ただし、二塁塁審が飛球を追い、攻守交代になったときは、他の塁の塁審が投手板を掃く。



【試合開始】プレイボール

球審はマスクを着けて捕手の後に立つ。

打者を打者席につかせる。

塁審、プレイヤー、ベースコーチが所定の位置についたかどうかを確認する。

投手が投手板に立ったとき右手を開いて高く挙げ、手のひらを前に向け“プレイボール”のコールとゼスチュアをする。



【球審の構え】

球審は捕手の位置を考慮しながら、原則として本塁の中心よりインサイドに構え、両足は肩幅より広く平行に開き、捕手に近づいて構える。



【塁審の構え】

1 塁塁審は、走者のいないとき塁から5.5m離れた位置に立つ。走者がいるとき（どの塁にいても）塁から4.5m。塁に走者がいる、いないにかかわらず、ファウルラインから1足分外側に離れて立つ。

2 塁塁審は、本塁に向かって所定の位置に立つ。左打者のときにセンターの守備位置に注意。

3 塁塁審は、走者のいないとき塁から5.5m離れた位置に立つ。走者がいるとき（どの塁にいても）塁から4.5m。三塁に走者がいるときは、ファウル地域へ1～2m離れて立つ。



【投球の宣告】

ストライク

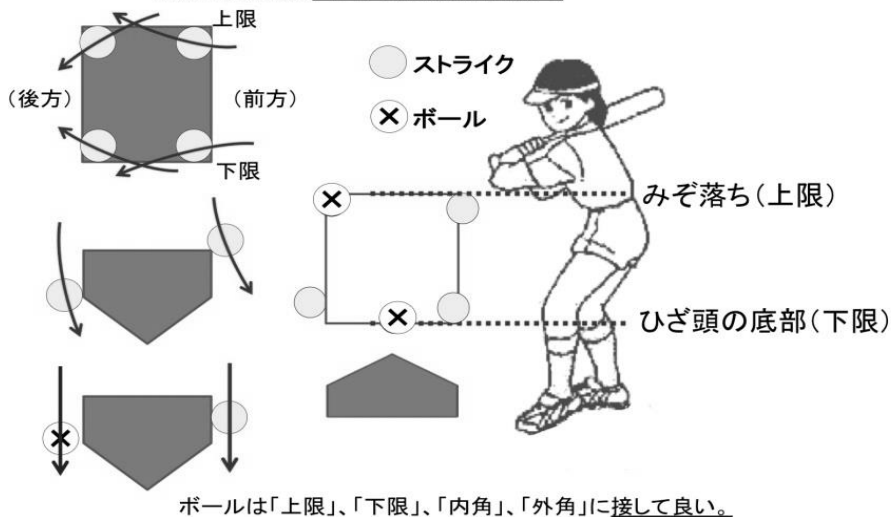
投手の投球動作に合わせて腰を落とし、視線を打者のストライクゾーンの上限に置き、投球判定の姿勢をとり、静止する。
(投球が捕手のミットに入るまで球のコースを視線だけで見極め、頭や上半身を動かしてはならない)
“ストライク”とコールしてから立ち上がり、右手の肘を直角に曲げてハンマーポジションを作る。
このとき、肘に力が入らないようにする。(手をすぐに下ろさない) 左手は身体前面のベルトの上で軽く握る。足の位置はそのままでよいが、閉じてよい。



きわどい見逃し三振のときは、大きな声で「ストライク・スリー」とはっきりとコールして、オーバーアクション、またはストライクのゼスチュアを行なう。

「2018ソフトボールストライクゾーン」

打者が自然に構えた時のみぞおちの下(上限)から膝の皿の底部(下限)までの本塁の上方空間で一か所でも通過すれば良い。



ボール

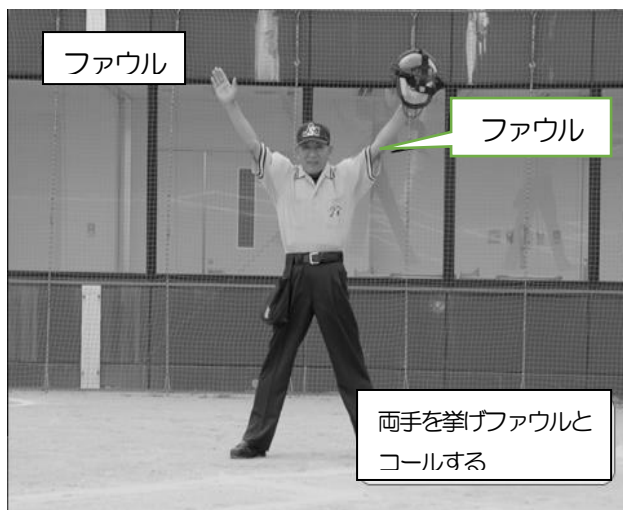
構えたままの姿勢で“ボール”とコールしたあと、ゆっくりと立ち上がる。



球審・塁審の諸動作
フェアのゼスチュア
球審



ファールのゼスチュア
球審



インフィールドフライ

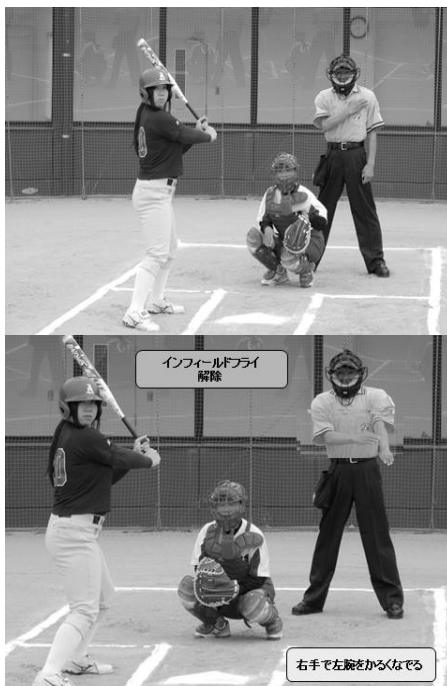
無死・1死で走者が1・2塁または満塁のときに内野に打ち上げられた、内野手が容易に捕球できるフライのことをいう。
(ラインドライブ・バントフライを除く)



塁審



塁審



インフィールドフライの
事前了解

インフィールドフライの
解除

球審のセーフ・アウトのゼスチュア

セーフは両手を水平に、アウトはワンアクションでハンマーポジションを作る。



塁審のセーフ・アウトのゼスチュア



タイム



肘を伸ばし両手を広げてゼスチュアする。
タイムは要求があったとき、すぐに宣告するのではなく
プレイの進行を見極め、一端落ち着いてから宣告する。

ボールデッドも同じゼスチュアであるが、ボールデッドはプレイの結果と同時に「コール・ゼスチュア」する。

ディレードボールデッド



球審のディレードボールデッド

ディレードボールデッドは、不正投球・走塁妨害（守備側の違反行為があったとき）など、すぐに判定せずに、結果を見極め、プレイが落ち着いてから正しい処置を行うときの、コールとゼスチュアである。

チェックスイング

打者がハーフスイングの時、守備側の選手からチェックスイングの要求があったとき、球審がスイングの判定を塁審に求めることができる。



振ったとき



振らなかったとき

右バッターの時は一塁塁審へ、左バッターの時は一塁塁審へチェックスイングを求める。（走者の動きに要注意）

審判員実務

審判員の服装および用具

審判員の服装

塁審の審判員はひさしの長い物を使用する。

目を保護するために審判員はサングラスを使用してもよい。

用具

インディケーター、バットゲージ、ハケ、ボールバック、プロテクター、レガース、コイン、スロートガード付きマスク、カップ

＊プロテクター等の着用は事故防止のためである。

必ず着用すること。マスク、プロテクターなどの必需品は個人用として揃えたい。

審判員が試合開始前に行うべきこと

試合開始予定時刻の1時間前に審判員席に集合し、試合に備える。

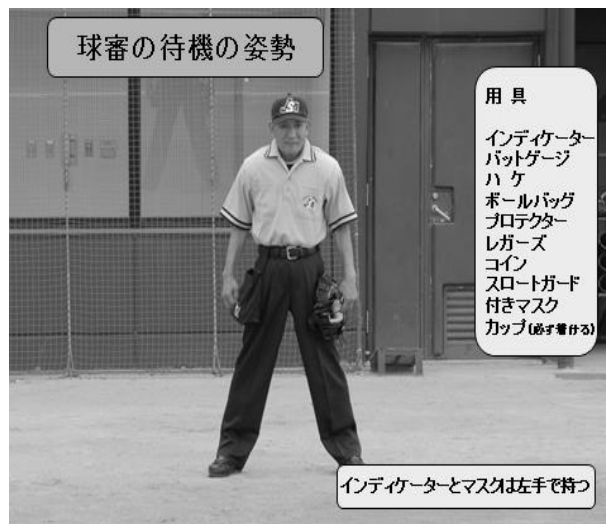
競技場の施設・設備や境界を確認点検し、必要な特別グラウンドルールを両チームの監督・主将にはっきり知らせておく。

競技場諸線（特に投捕間と塁間の距離、および外野フェンスまでの距離）の確認をする。

当該試合の審判員（副審を含む）でよく打ち合わせを行い連係動作やサインの徹底を期すること。

試合開始前の流れ

40分前	打ち合せ 審判主任、担当審判員、担当記録員、担当放送員
30分前	打順表の提出 攻守順の決定（両チームの主将・球審・二塁塁審） 打順表の確認（記録員・副審）・スターティングメンバーの決定 チームおよび相手チームの打順表を渡す（球審）
20分前	後攻チームのフィールディング
15分前	先攻チームのフィールディング
10分前	競技場の整備（内野のみ） 競技用具の点検 一塁側（一・二塁審） 三塁側（球審・三塁審）
5分前	打順表の最終確認（担当審判員・両チームの監督・・・本塁集合）
3分前	選手集合準備
0分前	プレイボールの宣告

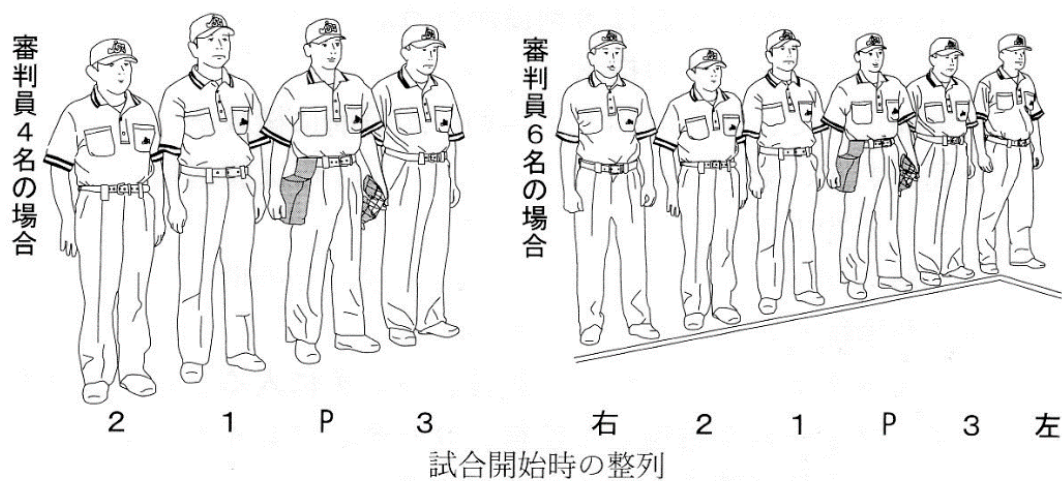


打順表の確認



用具点検

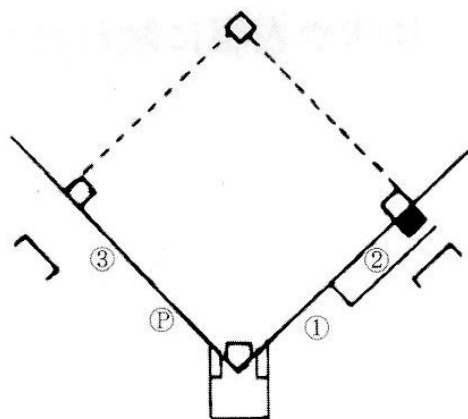
集合時の審判員の各位置



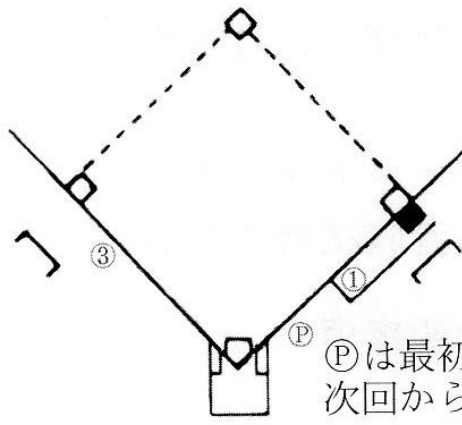
準備投球時・イニング終了時の位置

U. 審判大会

(4人制)

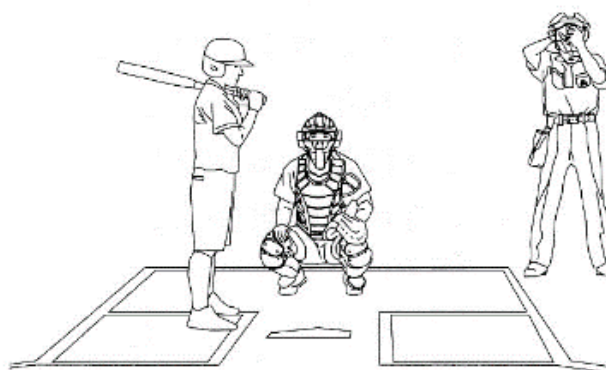
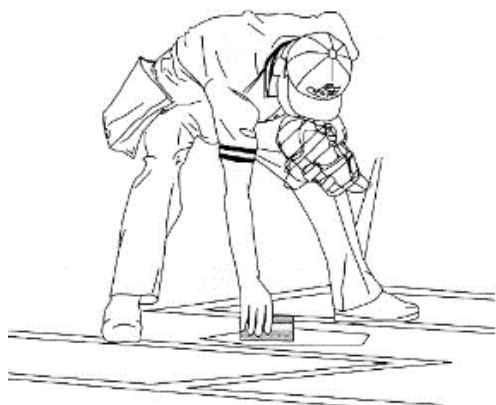


(3人制)



①は最初一塁側に
次回からは攻撃側

球審の本塁の拭き方・マスクの装着位置



打者の反対側・捕手席の外で装着する

一塁塁審の判定位置

送球の方向①～⑤により、原則としてア～エの位置に移動する。

①…ア ②…イ ③…ウ ④…エ ⑤…ア

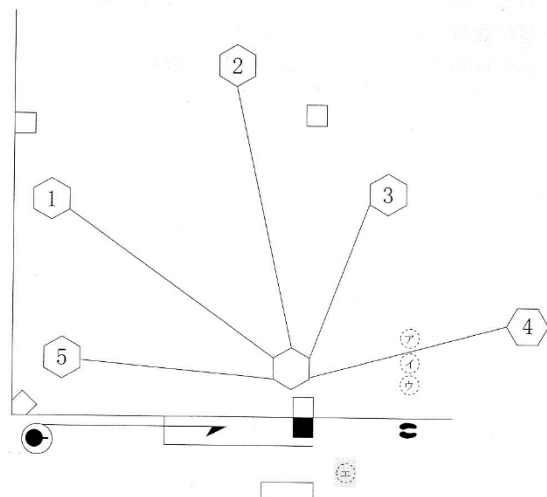
○は、送球する野手の位置

■は、走者がいないときの一塁塁審の位置

○は、一塁塁審の判定位置

●は、打者走者

図a



県北ソフトボール協会は、約400名の審判員が所属していますが、審判員活動を実際に実施しているのは、100名に満たない人員となっております。

この講習会が終了した時点から、公認の審判員となられる皆様につきましては、是非ともグラウンドに出てきていただき、審判員活動を楽しんでいただきたいと思います。

県北ソフトボール協会審判委員会